JIA National Convention 2015 Kanazawa

JIA建築家大会2015金沢

みんな力（りょく）――ともに在る社会へ――

2015.09.17(Thu)-2015.09.19(Sat)

大会を終えて

大会委員長　**近江美郎**

「JIA建築家大会2015金沢」は14年ぶりの北陸支部開催となり、新幹線も開業し多くの方が待ち望んでいる中、登録参加者が700名を超え、近年にない大会となりました。全国より参加いただいた多くの皆様に心より感謝いたします。

特に今回の大会は、支部としても若返りを図る重要な位置づけもあり、企画段階より多くの若手メンバーの参加を得て、北海道大会そして岡山大会に参加するなど2年にわたり準備を重ねてきました。

3.11を契機として、我々建築家の考えも大きく変わり、みんなで何とかしたいという日本人としての思いを込めて、テーマを「みんな力（りょく）」としました。

北陸らしさを前面に出した前夜祭は、街中宴会として東茶街周辺の飲食店9会場で、北陸支部会員が亭主となり実施しました。各会場いずれも和気あいあいとした中、JIAの将来など本音での熱い議論が交わされ、交流ができたことが好評でした。

また、フォーラムはこれまで、参加される皆さんにとって、行きたいフォーラムが同じ時間に開催されることもあり、どちらを選ぶか悩むことも多くありました。今回は、すべてのフォーラムに参加できることを第一に置いたスケジュールを組んだことで、移動時間など厳しい面もあったかと思いますが、各フォーラム立ち見が出るくらい、一般市民の方を含め多くの方に参加していただき、活発な意見交換が行われ、大変良かったと思っております。

また特筆すべきは、大会テーマの「みんな力」を発揮する場面として、初日の東山・卯辰山山麓において、地元の建築関係団体共催フォーラムを「みんなフォーラム」と名付け実施できたことです。今後の連携活動が活発化する兆しと歓迎するものです。

藤井聡氏と内山節氏の両名による基調講演の後のパネルディスカッションは、相容れぬ両名の主張をうまくコーディネートされた水野一郎先生、お疲れさまでした。

最も気合を入れて企画したレセプションパーティー、この日のために会員・準会員・協力会員とその社員の「みんな力」による手作り料理を準備してのおもてなし、無情にも式典終了に合わせ雨模様、城址公園の会場に着く頃はかなりの雨、それでも通り雨ならもうしばらく待てば何とかなるとの声も空しく、開会の挨拶時はこれでもかと見事な土砂降り、私の頭は真っ白……。自然現象とはいえ折角のパーティーで皆様方には大変ご迷惑をおかけし、本当に申し訳なく感じております。皮肉にも記憶に残るパーティーになったことは間違いありません。また、大会終了後、落ち込んでいることを察し、多くの皆さんから温かい励まし等を頂戴したことに感謝申し上げます。

行政・関係諸団体ほか多くの皆様のご支援とご協力のおかげにより、成功裏に終えることができ、感謝と御礼を申し上げます。

最後に大会運営のため、惜しみなく協力をいただいた会員・準会員・協力会員やその関係者に、深く感謝申し上げ御礼とします。ありがとうございました。

実行委員長　**西川英治**

3日間におけるJIA建築家大会2015金沢も無事終了することができ、安堵している次第です。全国から大勢の方に参加していただきあらためて感謝申し上げます。「みんな力（りょく）－ともに在る社会へ」をテーマに、数多くのフォーラムを市民に公開することで、今までにない多くの方々に参加いただいたのは、ありがたいことでした（特に学生たちの姿が目立った気がします）。

初日は大会テーマにふさわしい会場として、金沢卯辰山山麓寺院群を設定しましたが、お寺の御堂でのフォーラムは、会場の狭さや柱によって視界が遮られたりして、機能性は決して良いとはいえませんでしたが、神聖な空間の雰囲気は、それらを補って余りあったと思います。多くの会議も東山寺院群で行われましたが、会議に参加した多くの会員に、観光地ではなく、あまり知られているとはいえない金沢の重伝建地区を紹介でき、良かったかなと思っております。

2日目の基調講演は意見を異にすると思われた藤井聡氏と内山節氏が、話の中で根っこのところでつながっていることがわかり、大変興味深く聞きました。おふたりとも最終的には「もう構築するな」と建築家に警告を発していたことが印象に残りました。

その後、金沢城公園五十間長屋前の広場での歓迎レセプションに移りました。私の記憶では四国の内子大会以来の屋外会場でありましたが、内子は昼からの雨がレセプション開始時にはすべて上がり、いい天候の中で終了したのですが、本金沢大会ではお昼の好天が夜には大雨と最悪の事態となりました。こういう場合も一応は想定していたのですが、想定以上にひどい状況に陥り大変なパーティーとなってしまいました。しかし、多くの方々から「記憶に残った」とおっしゃっていただいて、思い切って屋外会場でやった意味があったと思っています。

今回、多くの建築家に参加いただき貴重なフォーラムを開催できたのですが、それをやりっぱなしのままにしておくのはもったいないとの思いから、年度末をめどに、本として出版する計画を支部で進めています。刊行の折には皆様にご案内させていただきます。

来年は笑都大阪での大会です。多くの方々にお会いできることを楽しみにしております。

大会式典・基調講演・パネルディスカッション

9月18日㈮　14：00～18：00　金沢歌劇座ホール

■大会式典

式典の第一声は、北陸支部の西川英治氏が大会実行委員長として歓迎の挨拶を述べ、さらに東日本大震災以降のパラダイムシフトの時代において、地域のコミュニティや絆の復活が重要であり、建築界を超えた「みんな力」が求められる時代であると大会テーマの主旨を説明した。

西川英治氏
（大会実行委員長）

次に芦原太郎会長が、身近な存在として建築家が社会と共に生き、建築界が一つになって「みんな力」を発揮し、国立競技場、建築基本法、環境などの諸問題に対処し、また正会員全員が登録建築家になることで社会に役立つ公益社団法人として、一つひとつの課題を解決していきたいと挨拶した。

芦原太郎氏
（JIA会長）

その後、来賓として国土交通省住宅局大臣官房審議官の杉藤崇氏、金沢市長の山野之義氏より祝辞をいただいた。さらに海外来賓を代表してアメリカ建築家協会会長のエリザベス・チュー・リヒター氏から、「みんな力」は時宜を得た賢明なテーマであること、建築家は健全な環境づくりのために常に主張する必要があること、日米の建築家を結びつける絆は世界の範例であること、建築家は奉仕・同情・謙虚といった目に見えない道徳心に基づく先導的な奉仕者にならなければならないことなどの言葉をいただいた。

杉藤崇氏
（国土交通省住宅局大臣官房審議官）

山野之義氏（金沢市長）

大会式典

名誉会員授与式

最後に、芦原会長から谷口吉生氏、圓山彬雄氏、相田武文氏、香山壽夫氏、ピチャイ・ウォンワイサヤワン氏、ハン・ジョンギュル氏、エリザベス・チューリヒター氏、以上7名に名誉会員授与が行われ、さらに48名にフェロー会員授与が行われた。

■基調講演

藤井聡氏（京都大学大学院工学研究科教授）から「「国土強靭化」のこれまでとこれから」、内山節氏（哲学者、元立教大学大学院教授）から「見失われた力を再発見する―関係が生み出す力―」と題する講演をいただいた。

藤井氏は近い将来確実に発生する大震災の地獄のような現実に社会が真剣に向き合っていないことを指摘し、今の日本で「みんなが一つになること」は簡単ではなく、生命に関わる国難を現実のものとして真剣に考える時に「みんな力」は生まれると主張した。

内山氏は1970年代から東京と群馬県上野村を往復して暮らしているが、日本の伝統的社会観は「自然～生者～死者」が結び合う力によって一体になっていて、創造主体としての「関係」が重要であると述べた。

藤井聡氏

内山節氏

■パネルディスカッション

講師の藤井氏、内山氏、そしてコーディネーターとして北陸支部から水野一郎氏が参加し、「みんな力」をテーマに対話を進めた。

パネルディスカッション

藤井氏はワークショップ等の市民参加が日常化する中で、「みんな」という言葉には具体的な顔がなく、実はバラバラな状態で、「おにぎり」のように個々の米粒を一つに結びつけるものがないと述べ、今の日本には「みんな」という意識が生まれるような国民全体の物語が必要であると提言した。内山氏は上野村では全員が「みんな」というイメージを共有し生き続けるが、大都市は個人の集合体でしかなく、矛盾することを調和させて生きていると述べ、構築することで大切なものを破壊し、所詮は何もできなかったと思う人は構築を捨てて何をするのかと投げ掛けた。水野氏は現代の建築家は構築よりも関係性が大切であると考え、この発想を各地域で提案しながら発展させていると述べて締めくくった。

蜂谷俊雄（北陸支部／金沢工業大学）

フォーラム

まちづくりや新しい建築家像の模索などをテーマとし、他会と共同で開催した「みんなフォーラム」を、金沢の街中、卯辰山山麓寺院群にて4本、建築や都市計画のさまざまな課題について考える「建築フォーラム」を、金沢21世紀美術館にて7本（シンポジウムを含む）開催。雨天にもかかわらず各フォーラムともほぼ満席となる多くの方に来場いただいた。

みんなフォーラム01　まち×建築　金沢のまちづくり

〈登壇者〉山出保、佐々木雅幸、福光松太郎、水野一郎　〈会場〉蓮昌寺〈日時〉9月17日㈭13：15～15：00

山出元市長の講演から始まったみんなフォーラム01では、まちづくりの基本は「残すところと・開発するところを区分けしながら調和することが重要である」とまず語られた。

「残すこと」に関しては、職人大学校の設立や重要伝統的建造物群保存地区の選定に尽力されてきたこと、「開発するところ」に関しては、金沢21世紀美術館の立案に触れられ、妹島和世さん、西沢立衛さんのお二人に、「買い物袋を下げて気軽に訪れる庶民派の美術館を作っていただきたい」と話された思い出が今も強く残っていると語られた。

パネルディスカッションでは、経済人（旦那衆）が中心になり行われてきた金沢のまちづくりを、用水の蓋を外して景観を取り戻したことや、日本で最初に設立した都市景観賞である都市美文化賞を発案したことにも触れ、良いアイディアを発案し実行する経済人（旦那衆）がたくさんいることが、金沢のまちの良い特色であるとも述べられた。

みんなフォーラム02　幸福×建築　福祉でつなぐ地域の力

〈登壇者〉雄谷良成、園田眞理子、西川英治　〈会場〉蓮昌寺〈日時〉9月17日㈭15：15～16：45

第一部では社会福祉法人佛子園理事長の雄谷（おおや）氏が講演し、廃寺を地域のコミュニティ空間に再生させた「三草二木西圓寺」を披露した他、福祉と新たな地域コミュニティを実施した「シェア金沢」、現在構想中の輪島市の中心市街地で展開する「人×漆＝輪島KABULET（カブーレ）」構想について、地方創生の視点を加えながら説明を行った。

第二部では明治大学教授の園田氏をコーディネーターに迎え、シェア金沢の設計者である五井建築研究所代表取締役西川氏とともに、福祉と建築について意見を交わした。

「地方創生とは何をすれば良いのか」という園田氏の問いに対し、「人がずっと関わり続ける日常をつくること」と応える雄谷氏と西川氏。終始、和やかな鼎談は聴講者の高い関心を集めるものとなった。

みんなフォーラム03　職人×建築　これからの職人像を考える

〈登壇者〉岸本耕、石動嘉信、新迫弘康、山岸敬広　〈会場〉蓮昌寺〈日時〉9月17日㈭17：00～18：30

建築家であり、職人でもある岸本氏から仕事のスタイル「分業してつながる」さまざまなプロジェクトの紹介があり、工務店の経営だけではなくcaféの運営やフリーペーパー『タテよこナナメ』の発刊を通じて地域とのつながりをつくる活動が紹介された。

その後、パネリストの石動（いするぎ）左官：石動氏から若手職人育成現場の紹介があり、一元（いちもと）大工代表：新迫（しんさこ）氏からは伝統工法を使用したプロジェクトの紹介やその工法を受継ぐ継承者がいないといったものづくりの現場が報告され、それぞれの職人に対するイメージやこれからの職人育成のあり方などを話し合った。

コーディネーターの山岸氏によって、「職人ってカッコいい」そんな職業であり続けるために、地域とのつながりやまちへの思いがある若い世代の旦那（投資家）と腕の良い「お抱え大工」の関係が必要ではないかとまとめられた。

みんなフォーラム04　編集×建築　パブリック・リノベーション　イノベーションによる新しい宿泊はどこへ向かう？

〈登壇者〉馬場正尊、宮崎晃吉、小津誠一　〈会場〉玄門寺〈日時〉9月17日㈭17：00～18：30

空き家から公共空間のリノベーション、不動産、アート活動や宿泊施設の運営まで、建築設計以外にも多岐にわたって活躍している3人が集まった。

それぞれ、自身の活動を通じて建築を編集するにあたり、建築的なハードや利用する側のソフトの他に、上手に空間を使い尽くすためのしくみ、「OS」づくりが重要だと語り合った。

3人に共通しているのは、まちを良くするためにたゆまぬ努力をしているということ、興味を持ったことにはとことん首を突っ込むということであり、「我々は好奇心の奴隷である」と馬場氏は笑顔で話した。

自分の仕事への取り組み方を見つめ直すきっかけになったとともに、参加者の約半数が一般と、建築を編集するということへの関心の高さがうかがえた。

建築フォーラム01　環境シンポジウム2015　建築の魅力と環境性能

〈登壇者〉前真之、小林光、小林光、清野新、末光弘和、野沢正光　〈会場〉金沢21世紀美術館／レクチャーホール〈日時〉9月18日㈮9：30～11：50

大会2日目の最初のプログラムとして開催され、はじめに6名のパネリストによる発表が行われた。

前氏（東京大学准教授）は「環境エンジニアリングの楽しさを学べる大学教育」、小林氏（慶応義塾大学特任教授）は「環境エンジニアリングへの期待」、小林氏（東北大学准教授）は「これからの環境エンジニア」、清野氏（Arup環境設備エンジニア）は「グローバルな企業における様々な体験」、末光氏（SUEP.）は「デザインとエンジニアリングの横断」。そして最後に、野沢氏（JIA環境会議議長）は「サスティナブルな社会と建築」のテーマで発表された。

後半は前半の発表をもとにディスカッションが展開され、狭義の技術論にとどまらない、社会全体を見据えた建築に求められる環境的な視点が示される有意義な内容となった。

建築フォーラム02　継承×建築　建築のスピリットをつなぐ

〈登壇者〉伊東豊雄、妹島和世、竹内申一　〈会場〉金沢21世紀美術館／シアター21〈日時〉9月18日㈮10：15～11：45

現代建築の最先端を行く伊東氏・妹島氏の、お二人がお揃いになるということで、事前申し込みは早い段階で定員オーバーとなり、当日も、午前の早い時間のフォーラムにもかかわらず、あふれんばかりの立ち見で大盛況となった。

前半の講演では、お二人がそれぞれ国内外の最新作を中心に丁寧に説明された。場所や用途は異なるが、自然との関係を重視した設計内容や、地域の住民や関係者と一緒に、みんなで建築をつくっていく姿勢に、これからの建築家のあるべき姿を教えていただいた。

後半、竹内氏を交えての鼎談では、みんなで建築をつくっていくことの大切さをお二人が異口同音に示された。

また、伊東氏が妹島氏、竹内氏のお二人を伊東事務所の出身であると紹介された後、「継承とは人を育てることである」とおっしゃったことに、これからの設計事務所のあるべき姿を教えていただいた。

山岸敬広
（北陸支部／山岸建築設計事務所）
みんなフォーラム、建築フォーラム01、02

建築フォーラム03　公共性×建築　「みんなで創る建築」の未来

〈登壇者〉工藤和美、中村拓志、内田奈芳美、吉村寿博　〈会場〉金沢21世紀美術館／シアター21〈日時〉9月19日㈯9：15～11：00

「人口減少」「高齢化」といった現代社会が抱える問題に対し新しい社会の骨格づくりが求められる中、これからの公共性の新たな可能性を探るべく、まずは工藤氏と中村氏より建築設計を通じた公共性に対する体験談等をご講演いただき、公共建築に対する人の関わり方等、示唆に富んだお話を聞くことができた。

続いてまちづくりを専門に研究されている内田氏と、吉村氏が加わり、4者によるパネルディスカッションを行った。ここでは建築物と公共性の関係や金沢のような地方都市において公共性をコモンとして定義し、その可能性を探るなど多角的な視点からの討議が行われた。

建築フォーラム04　防災×建築　コミュニティをキーワードに、東北・北陸の実践から学ぶ

〈登壇者〉真野洋介、西田司、萩野紀一郎　〈会場〉金沢21世紀美術館／シアター21〈日時〉9月19日㈯11：15～13：00

オンデザインの西田氏から、東北石巻における被災前からのまちの問題点を掘り起こし、住民主体で経済的にも成り立つ魅力あるまちづくり運動の報告を、輪島で活動する萩野氏からは、7年前の能登地震で被災した古い土蔵をボランティア活動で修復し、地域に根を下ろした里山運動の実践報告を、東京工業大学大学院の真野准教授からは、富山県高岡市における歴史的町並みの中での防災のあり方を大学のフィールドワークとして関わり、地域運動に参画する事例を紹介いただいた。

3氏は立場こそ違えど、地域コミュニティと関わった活動を実践し、日頃からの防災への備えとして、これが必要不可欠であることや、ボランティアと仕事領域の捉え方の問題点など、再認識させられることが多々あった。

建築フォーラム05　工芸×建築　工芸建築の可能性

〈登壇者〉内藤廣、秋元雄史、中村卓夫、浦淳　〈会場〉金沢21世紀美術館／シアター21〈日時〉9月19日㈯14：00～15：45

北陸地方の工芸力を探り、建築と工芸の今後の在り方や可能性を探るフォーラムとなった。

第一部では、内藤氏にご講演いただき、金沢市内中心部にある陶芸家中村氏のご自宅を設計された際の建築家と工芸家のコラボレーションの様子をご紹介いただく。第二部では、秋元氏より工芸力のもつポテンシャルを社会に繋げたいという金沢伝統トリエンナーレの報告。中村氏からは、「うつわ」の可能性を模索した新たな世界感による作品のご紹介と、ご自宅の建設プロセス中の建築家とのやりとりについてお話をいただく。話は多岐にわたり、さまざまな視点から工芸的な思想・手法から生まれる「工芸建築」の可能性について論じられ、モダニズム建築の限界を超えるヒントが垣間見えるフォーラムとなった。

建築フォーラム06　地域素材×建築　シラスコンクリート住宅から見えるもの

〈登壇者〉山下保博、佐藤淳、野口貴文、松岡恭子　〈会場〉金沢21世紀美術館／シアター21〈日時〉9月19日㈯16：00～17：45

本フォーラムでは、国内初のシラスコンクリート住宅の事例を通じて地域固有の素材を用いた建築創りの可能性を掘り下げた。

コーディネーターの松岡氏の進行のもと、まず山下氏より地域素材利活用協会（チソカツ）によるさまざまな地域での実績の紹介があった。野口氏の環境型シラスコンクリートの性能・特性の説明の後、それを用いた住宅の設計過程や実際の住み心地等を、クライアントご夫妻と山下氏が振り返った。また同コンクリートの特性を生かした構造設計を、佐藤氏が解説した。

終盤では、北陸の地域素材の可能性について会場を巻き込んで議論を行った。設計者、研究者、技術者、そしてクライアントの「みんな力」によって一つのフォーラムを作り上げた。

フォーラム

建築フォーラム07　北陸力×建築　地域文化の建築展開

〈登壇者〉隈研吾、伊東順二、大樋年雄　〈会場〉金沢21世紀美術館／シアター21〈日時〉9月19日㈯ 18：00～19：45

伊東氏が名誉館長を務め、隈氏が設計を担当した富山キラリのプロジェクトの話に触れられ、図書館＋美術館というプログラムを発案した理由は、「インテリジェンスは繋がっているべきもの、記述や体験が人間の知を育てていく、さまざまな文化が混じり合う「みんな力」ということが大切だ」と2人で考えたことがキッカケになったと述べられた。

それから、3名が出会ったキッカケとなった、故 田中一光氏立案の茶美会や第46回ヴェネツィア・ビエンナーレ(SUKI)のエピソードに触れられ、文化や場を創造するときに重要なことは、「さまざまな分野の文化が集まり創造の総合力が高まること、たくさんの時間が集積された仲間で何かを創造すること、小さなものが集まって大きなものになること」これらのことが重要なことではないかと述べられた。

フォーラム総評

大会テーマである「ともに在る社会へ」を、建築家は具体的にどのような視点で、どのような立位置で実現していくべきか？計11本のフォーラム（シンポジウムを含む）の企画は、建築を取り巻く「みんな力（りょく）」を必要とするテーマ探しから始まった。結果、建築家を含め行政・経済・都市計画・教育・福祉・芸術・建設など各分野の国内外で活躍する計41名もの講師が参加。一般市民も参加可能とし、講演に必ず鼎談やパネルを加え、まさしく「みんな力」によりテーマごとに活発な議論を行った。

ともに在る社会に向け建築家像のありかたについて考える機会となったなら幸いである。

浦　淳
（北陸支部／浦建築研究所）
リード、建築フォーラム03～07、総評

シンポジウム

法人協力会員サミット
建設現場、今何が問題？

9月17日㈭　13：00～14：30
金沢21世紀美術館／シアター21

シンポジウム／子供×建築
建築と子供たちネットワーク主催

9月17日㈭　16：00～18：00
金沢21世紀美術館／シアター21

アーカイヴスシンポジウム
NPO 建築文化継承機構シンポジウム
金沢の建築文化と建築家の想像力
偉大な建築家のエピソードから学ぶ

9月18日㈮　10：00～12：00
しいのき迎賓館／2Fイベントホール

シンポジウム／ストック活用
ストック活用を環境・保存・まちづくりの視点で考える

9月18日㈮　12：00～13：30
金沢歌劇座／大集会室

シンポジウム

全国保存再生会議

9月17日㈭　11：00～12：30
東山・卯辰山山麓寺院群　円光寺

展示

Nコレクション展
世界の有名建築家のドローイングコレクションの展示

9月16日㈬　14：00～17：00
17日㈭　9：00～17：00
18日㈮　9：00～15：00
しいのき迎賓館／2Fガーデンルーム・イベントホール

旧石川県本庁舎保存・再生の歩み展

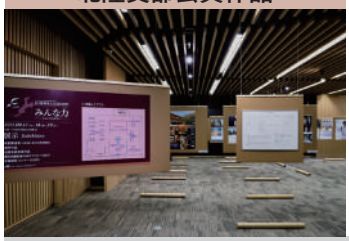
9月16日㈬　14：00～17：00
17日㈭　9：00～17：00
18日㈮　9：00～15：00
しいのき迎賓館／2Fイベントホール

住宅模型展示

9月17日㈭、18日㈮
10：00～17：00
19日㈯　10：00～15：00
金沢学生のまち市民交流館

展示

本部関連賞（大賞／新人賞／25年賞／環境賞）海外作品＋交流支部会員作品 北陸支部会員作品



第９回 建築家のあかりコンペ 2015

卒業設計コンクール 2015

9月17日㈭、18日㈮　9：00～17：00　19日㈯　9：00～15：00
金沢商工会議所 1Fホール

前夜祭

街中宴会

9月17日㈭　19：00～21：00
東山・主計町・並木町周辺

レセプションパーティー

9月18日㈮　19：00～20：30　〈会場〉金沢城公園：五十間長屋

エクスカーション

金沢まち歩き —東山と卯辰山山麓寺院群—

9月17日㈭　14：00～16：00
〈コース内容〉
宇多須神社→卯辰山山麓寺院群（慈雲寺、蓮昌寺、西養寺、全性寺、妙泰寺、来教寺など）→旧木町通り→高木糀商店→ひがし茶屋街（旧一番町通）→宇多須神社

金沢まち歩き —金沢用水散策—

9月18日㈮　14：00～16：00
〈コース内容〉
21世紀美術館→西外惣構堀→鞍月用水→里見町こまちなみ保存地区→鈴木大拙館→旧中村邸、中村記念美術館→美術の小径→石川県立美術館→辰巳用水→金城霊沢→兼六園管理事務所（旧津田玄蕃邸）→21世紀美術館

金沢まち歩き —西茶屋街と寺町寺院群—

9月19日㈯　14：00～16：30
〈コース内容〉
登録有形文化財 犀川大橋→雨宝院→にし茶屋街（西茶屋街資料館、西検番事務所、甘納豆かわむら等）→妙立寺（忍者寺）→六斗の広見→松月寺→立像寺→高岸寺→新桜坂緑地（眺望ポイント）→石伐坂（W坂）→山錦楼→犀川大橋

エクスカーション

富山まち歩き —LRTで富山満喫—

9月19日㈯　9：00～16：30
〈コース内容〉
午前　富山駅北口集合→（ポートラム移動）→東岩瀬→岩瀬街並み散策（北前船廻船問屋群・森家・酒商 田尻本店など・90分）→（ポートラム移動）→富山駅北口（解散）
午後　富山駅南口集合→（セントラム移動）→西町→富山市ガラス美術館→富山市民プラザ・富山国際会議場→高志の国文学館→（セントラム移動）→富山駅解散

輪島まち歩き —「まれ」ツアー—

9月19日㈯　7：00～20：30
〈コース内容〉
金沢21世紀美術館→千里浜なぎさドライブウェイ→輪島キリモト（工房・店舗見学）→朝市→ランチ→輪島塗会館→間垣の里→黒島地区重要伝統的建造物群保存地区散策（角海家見学）→阿岸本誓寺→金沢駅解散